

はんだ山の風



新入職
看護職員

笑顔で挑む、未来への第一歩。
患者さんに寄り添い共に歩んでいきます。

Contents

- P2 病院長就任のごあいさつ 病院長 松山 幸弘
- P3 副病院長就任のごあいさつ 渉外・広報担当 副病院長 三澤 清
- P4 副病院長就任のごあいさつ 教育・研修担当 副病院長 前川 裕一郎
- P5 シリーズ最新医療 vol.40「眼科領域の遺伝子治療」 眼科 教授 堀田 喜裕
- P6 病気ここが知りたい「AYA世代患者さんに対するサポート」 小児科 講師 坂口 公祥
- P7 看護部「5年ぶりの開催 第4回健康教室」 がん看護専門看護師 箕浦 侑加
- P8 退職のごあいさつ「第一外科は永遠に不滅です!」 外科学第一講座 教授 椎谷 紀彦
- P9 はんだ山トピックス
2023 12/22(金) ジュビロ磐田選手 小児科病棟来訪
2023 12/25(月) 中庭リニューアルイベント
2024 3/9(土) 市民公開講座開催 ~令和5年度地域貢献事業~
- P10 クラウドファンディング ウイルス性肝炎啓発イベントの開催について
肝疾患連携相談室 室長 肝臓内科 准教授 川田 一仁
- P10 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第37・38・39回) 医療福祉支援センター地域連携室



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。
(一般病院3)

日本医療機能評価機構



病院紹介動画は
こちらから

令和6年度(2024年)より浜松医科大学医学部附属病院病院長に再任させていただくことになりました。

令和2年度(2020年)から病院長を拝命しましたが、同時に新型コロナウイルス感染症に対する危機管理対応をせまられました。今思えば令和2年1月から始まったコロナ感染騒動は長い3年間であったと思います。我々を取り巻く医療、生活、そして人間関係は大きく変わりました。災害とも言えるあのパンデミックは、日本医療の質や連携、特に感染爆発時の連携の弱点を炙り出しました。完全に終息したわけではありませんが、これを機に、次の感染爆発に対する各病院の対応、連携対応策を入念に立てる必要があります。もちろんパンデミックへの対応を国レベルで変える必要がありますが、各自治体での病院連携システム構築は最も重要だと考えます。

病院執行部体制について

さて本院についてです。

病院にとって大切な事は「安全安心の医療を提供できること」と考えます。病院で医療事故が最も多いのは手術室です。外科の指揮を執り、手術現場の状況も把握している竹内裕也先生が適任と考え、医療安全管理を再度お任せいたしました。

本年度から新たに始まる働き方改革・経営戦略担当には、麻酔科で手術戦略担当の中島芳樹先生に加えて、前川裕一郎先生に就任いただきました。今後の大学病院経営、働き方改革は表裏一体で、最も重要な部門になると考えております。

前川先生には教育・研修担当もお願いし、卒後教育センターのセンター長には、大橋温先生に就任いただきました。昨年度は初期研修医33名で過去最高の94%のマッチング率でした。しかし、今後増加が見込まれるふじのくに奨学資金被貸与者への対応は喫緊の課題であり、俯瞰的で抜本的な卒後教育システムの見直しが必要と考えます。

また広報担当には三澤清先生、佐々木菜名代看護

病院長 松山 幸弘



部長を加えた5人の副病院長、さらに、特別病院長補佐としてMDX(メディカルデジタルトランスフォーメーション)担当の五島聡先生、地域連携担当の安田日出夫先生を任命しました。5人の副病院長と2人の特別病院長補佐、合計7人の執行部の団結力でこの難局を乗り切る覚悟です。

今後の方向性について

今年度は勝負の年です。今までの本院の顔を忘れて新しい顔に生まれ変わる必要があります、またそうでないとこの困難を乗り切れないと思います。

4つの新手術室とハイブリット手術室の稼働、ICU、HCU、NICUの充実、そして病床稼働を見える化した病床管理システムの導入でハードは整いました。あとは我々スタッフ全員が力を合わせて病床稼働9割、手術件数9,500件を目指してダッシュするのみです。目指せ9095達成プロジェクトです。

また、働き方改革に向けてICT・デジタル化を推進し、外来予約システム、AI問診票、救急部カルテシステム、タブレットによる診療説明などが始まる予定です。

病院運営は決して容易ではありませんが、「患者さんを少しでもよくしたい」「笑顔をもどしてあげたい」といった情熱さえあれば、どんなに忙しくても、どんなにつらい思いをしても、一緒に乗り越えることができる、そんな心意気を持ったチーム作りをずっと目指してきました。本院はそれができる病院であり、また全スタッフもその能力を持ち合わせた一致団結した集団だと信じています。

世界はまだ動乱、混沌としており、先行きが不安な面もありますが、悩んでいても仕方ありません。目指すゴールはシンプル。チームでひとつの矢になることです。情熱的で、チャレンジ精神旺盛なチームワークを目指し、大きな声を出していつも元気にニコニコしていれば何とかあります。

副院長(渉外・広報担当) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 三澤 清



このたび、令和6年(2024年)4月1日付で副院長(渉外・広報担当)を拝命いたしました耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の三澤清(みさわ きよし)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、平成7年(1995年)に浜松医科大学医学部を卒業し耳鼻咽喉科医になりました。静岡県内の総合病院で研修を行い、平成22年(2010年)から助教として医学部附属病院に勤務し、令和3年(2021年)4月より耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座の教授を務めております。

この3年間は、新型コロナウイルス感染症下の診療、教育、研究などで大変なことも多くありましたが、信頼できる教室員や職員と一つひとつの課題に取り組んでまいりました。今回、このような大役を仰せつかり、不安もありますが、精一杯がんばりたいと思います。

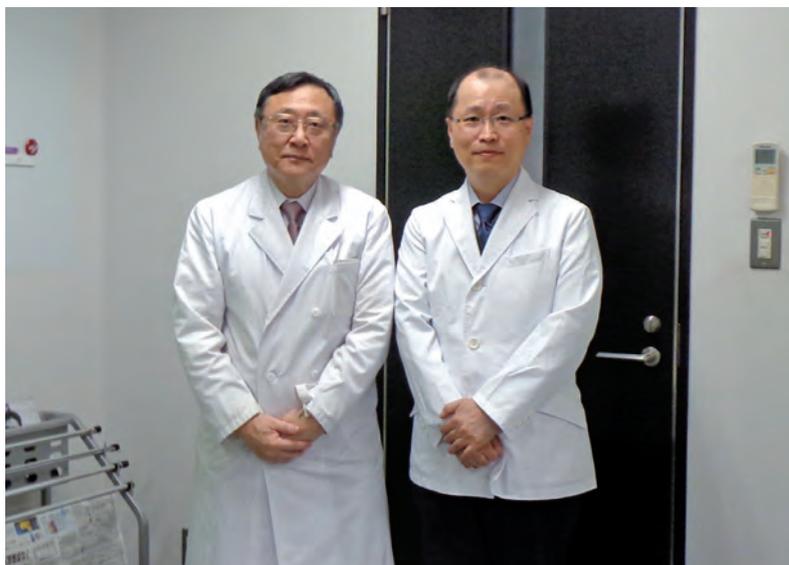
当講座は、おもに耳・鼻・のど(頭頸部)の3つのチームを構成し、それぞれが密接に連携しながら高度な治療にあたっています。人工内耳埋め込み手術、音声改善手術、ナビゲーション下の低侵襲内視鏡副鼻腔手術、遊離皮弁による再建を伴う頭頸部がん手術などチーム医療を基礎として、静岡県内でも限られた診療を行っています。現在、静岡県東部から愛知県三河地域まで、多くの病院、クリニックから患者さんをご紹介いただいております。

渉外・広報担当の副院長は、眼科学講座の堀田喜裕名誉教授がこれまで担当されてきました。新型コロナウイルス感染症が始まる

と堀田前副院長は、浜松市医師会などの地域連携や行政機関との調整など、各方面

に目を配り対応されておられました。私も微力ではありますが、めまぐるしく変化する社会情勢のなかで渉外・広報担当副院長として、目を凝らし、さらに耳を澄まして声を立て、対応してまいります。

最後になりますが、私は浜松医科大学入学から30数年、静岡県で過ごしてまいりました。浜松医科大学が静岡県民の皆さまからどれだけ高く評価していただいているのか、そしてさらに高い期待を寄せられているのか理解しているつもりです。長い静岡での生活の経験を生かし、浜松医科大学医学部附属病院の評価につながる仕事をしたいと思っています。松山幸弘病院長の強いリーダーシップのもと、佐々木菜名代副院長、中島芳樹副院長、竹内裕也副院長、前川裕一郎副院長と共に、“静岡県民に愛され続ける浜松医科大学附属病院”を目指して精進してまいりますので、皆さまも何卒よろしくご指導のほどお願い申し上げます。



堀田前副院長(左)にお仕事の引き継ぎをしっかりと行っていただきました

副院長(教育・研修担当) 内科学第三講座 教授 前川 裕一郎



このたび、4月1日付で副院長(教育・研修担当)を拝命いたしました内科学第三講座の前川裕一郎と申します。

私は、平成29年(2017年)4月に内科学第三講座(循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)に着任いたしました。4月からは本学に赴任して8年目を迎えます。その間、令和4年(2022年)7月1日付で病院長特別補佐(経営戦略担当)を拝命いたしました。『はんだ山の風』では、赴任時にごあいさつとして自己紹介および今後の抱負などを述べる機会があったと記憶しております。また、過日病院長特別補佐としてもその機会をいただきました。

病院長特別補佐としては、主に病院執行部会議を通じて現在行われている、あるいはこれから行う病院のさまざまな新しい取り組みを知る機会がありました。コロナ禍からの世界経済回復によるエネルギー需要の増加や諸外国間の大規模紛争などの影響によりエネルギーの需給バランスが崩れ、エネルギー価格が高騰していることや日本経済全体の停滞などにより、大学病院を取り巻く環境が年々厳しさを増していると感じています。厳しい経営環境の中、各々の大学病院の自助努力により良好な経営状態を維持していく事が求められており、松山幸弘病院長、堀田喜裕副院長、須田隆文副院長、中島芳樹副院長、竹内裕也副院長、佐々木菜名代副院長(いずれも3月末現在)からなる執行部の先生方は、現場とのコミュニケーションを大事にしながら多方面にわたるさまざまな取り組みをなさってこられました。医師の働き方改革が始まり、今後、さらなる変化

が求められると感じております。

教育・研修担当として具体的に何を取り組んでいくのかはこれからになりますが、卒後教育センターの業務を含めた教育・研修業務に微力ながら尽力させていただきたいと考えております。

これまで、卒後教育センターセンター長の須田隆文先生と副センター長の大橋温先生をはじめとする先生方やスタッフの皆さまのご尽力の結果、令和5年度(2023年度)の研修プログラムのマッチング率は、国公立大学附属病院の中でベスト10以内に入る高い水準でした。結果、30名を超える新しい研修医の先生方を本院に迎える事になりました。研修医1年目の先生方の人数が30名を超えるのは平成31年度(2019年度)以来5年ぶりになるとのことです。多くの先生方が本院を研修先として選んでくださったことは、卒後教育センターの皆さまの地道な努力の結果だと思えます。

仕事柄、他院にお邪魔させていただく機会もありますが、私は、研修医の先生方が多い病院を訪れた際には、活気にあふれ、今後のさらなる発展性を感じさせる病院という印象を持っていました。新しい若い先生方が加わった本院がよりよくなるように努力してまいります。至らぬ点もあるかと思いますが、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

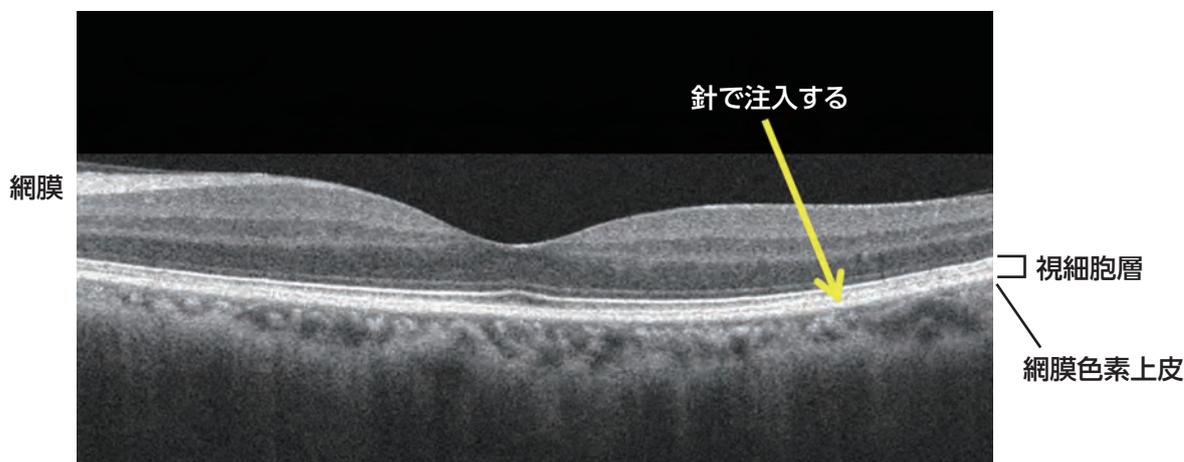


令和5年(2023年)PMDA(医薬品医療機器総合機構)は、両アレル性RPE65遺伝子変異によって引き起こされる遺伝性網膜ジストロフィー(IRD: Inherited Retinal Dystrophy)の治療のための、遺伝子治療薬ルクスターナ®(Luxturna: voretigene neparvovec)注を承認しました。両アレル性RPE65遺伝子変異によるIRDには、レーベル先天黒内障、網膜色素変性、眼底白点症が含まれます。ルクスターナは、アデノ随伴ウイルス2型(AAV2)ベクターによる遺伝子治療薬で、 1.5×10^{11} ベクターゲノムを各眼の網膜下(網膜色素上皮の上)に細い針で注入します(下図)。ベクターは網膜色素上皮細胞に取り込まれ、細胞内にエピゾームとして存在し、RPE65タンパク質が産生されることによって光感受性が改善すると言われています。米国や欧州での5~8年の追跡調査では重大な副作用は、網膜下に注入する手技的なものが多いようです。ルクスター

ナの価格は片目あたり4,960万円と高額です。ゾルゲンスマ®点滴静注に比べると量が少ないのですが、投与前後にステロイド薬の使用が必要となります。

IRDの治療薬の保険収載と時期を同じくして、IRDの原因となる82遺伝子を対象とした遺伝学的検査も保険収載されます。国内の病院と検査会社が、先進医療Bを経てその有用性が評価されました。ただし、このパネルシステムによるIRDの原因遺伝子の同定率は4割程度とされています。IRDの遺伝学的検査によって、遺伝形式の決定、おおまかな予後予測、新たな治療薬への治験参加等に役立ちますが、現状ではRPE65関連のIRDが疑われる症例が対象になります。日本眼科学会、日本網膜硝子体学会では、ガイドライン等を整備していますので、詳細は各ホームページをご覧くださいと幸いです。

(※令和6年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



Optical Coherence Tomography(OCT, 光干渉断層撮影)による網膜の断面像を示します。3本ある高輝度の線の一番下は網膜色素上皮に一致しますが、その上に0.3ml注入します。



AYA世代患者さんに対するサポート



小児科 講師 坂口 公祥

「AYA(アヤ)世代」と言われても聞きなれない方が多いと思います。思春期(Adolescence)と若年成人(Young Adult)を合わせた言葉で、概ね15歳ぐらいから40歳ぐらいまでを指します。この世代は進学、就職、結婚、出産などの人生におけるイベントが多いこと、経済的・社会的な不安定さから闘病生活に困難が発生しやすい世代でもあります。この世代に発生するがんは小児科で診療する年齢としては高めであり、成人でがんを発症する年齢としては低めであるという狭間の世代です。AYA世代のがん患者さんの治療成績は他の世代の治療成績と比べ、時代が進んでも改善が乏しかったことから注目されるようになりました。

先ほども述べたとおり、AYA世代は闘病生活に困難が発生しやすい世代です。このため、がん以外の病気でも長期療養を必要とするAYA世代の患者さんにはさまざまなサポートを必要とする方がいらっしゃいます。そして患者さんごとに必要とするサポートも異なります。患者さんに必要なサポートを提供するため、AYA世代の患者さんを診療することが多い診療科の医師、AYA世代の患者さんが必要とする支援に携わる診療科、部門の方々とともに令和4年(2022年)11月にAYA世代支援チームを立ち上げました。

長期療養を必要とするAYA世代の患者さんが求める支援は多岐に渡ります。高校生の患者さんの場合には、高校の出席日数を確保するためにどうすればよいかという問題もあります。治療の合併症によって子ども^{にんようせい}を持てる力(妊孕性)が失われる可能性が高い患者さんでは、治療と妊孕性の温存をどのように両立するかという問題もあります。お子さんがいる患者さんには、子どもに病気である事実をどのように伝えるかも問題となります。また、AYA世代

の方は年齢的に介護保険が使用できないので、療養にかかる費用をどのように確保するかという問題もあります。健康な同世代が周りに多くいる中で、自分だけが闘病しているという思いから精神的なケアを必要とする方もいらっしゃいます。

実際にこれまでも造血器腫瘍や良性の血液疾患のため、長期入院を必要とする高校生の患者さんで本院と高校が連携し、オンラインで授業を受け、それを出席と認定していただき、進級できたケースがありました。終末期の女性のがん患者さんのお子さんに、患者さんが遠くないうちに死を迎えるであろうこととお話しさせていただいたこともありました。

私たちAYA 世代支援チームは、AYA世代の患者さんがかかえるさまざまな問題を解決する助けになりたいと考えております。ご相談のある方はこちらのURL(<https://www.hama-med.ac.jp/form/hos/ayasoudan.html>)や二次元コードからフォームに入力してください。患者さんやその関係者だけでなく、医療関係者からもご相談をお待ちしております。



AYA世代支援チーム定期カンファレンス

がん看護専門看護師 箕浦 侑加



本院では、「地域住民の健康寿命を延ばすことに貢献できる」を目的に、専門看護師、認定看護師が中心となり、平成28年(2016年)から健康教室を開催してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により開催できない時期が続きましたが、令和5年度(2023年度)は5年ぶりに開催することができました。

第4回健康教室は、令和5年(2023年)12月2日(土)アクトシティ浜松コンgresセンターにて、浜松市、湖西市、磐田市から約70名の方に参加いただき開催されました。テーマは『あなたの血糖値は大丈夫？ 糖尿病を正しく知ってリスクを減らそう』です。

今回は、浜松市健康福祉部健康増進課保健師、内分泌・代謝内科医師、慢性看護専門看護師から、「糖尿病対策における浜松市の現状と取り組み」「糖尿病を正しく知ろう」「血糖値をコントロールする生活習慣」についてご講演いただきました。

参加者からは、糖尿病について「予防の大切さがわかった」「医師の講演で血糖値が上がる仕組みがわかった」「食事や運動について参考にしたい」と

いった感想が聞かれ、参加者の健康意識の向上に寄与できたと考えています。

糖尿病有病者の割合は、最近20年間で増加傾向です。糖尿病は自覚症状が乏しいため、高血糖が放置されることで、目や腎臓、心臓や脳血管などの合併症を発症することが問題であり、糖尿病の発症予防と重症化予防が国策となっています。

浜松市は県内でも有意に糖尿病予備軍が多く、糖尿病発症予防のためのさまざまな取り組みがされています。その一つにヘルスケアアプリ『はままつ健幸クラブ』があります。このアプリを使うと、毎日の歩数を見える化できます。また、歩数計測や血圧、体重の記録などによりポイントが貯まり、それを貯めて応募すると毎月抽選により市の特産品や健康関連の商品が当たる仕組みもあり、楽しみながら健康管理ができます。令和4年(2022年)10月から運用を開始し、現在は1万人を超える方が利用されています。

今後も健康教室の開催を継続し、地域の皆さんの健康寿命を延ばすために貢献していきます。



本院の専門看護師・認定看護師



第4回健康教室の様子

第一外科は永遠に不滅です！

外科学第一講座 教授 椎谷 紀彦



このたび、令和6年(2024年)1月末をもちまして、浜松医科大学を退職させていただくことといたしました。私どもに人生を預けてくださった患者さん、私どもを信頼して患者さんをご紹介くださった先生方、私どもの活動をサポートしてくださった学内の先生方やスタッフの皆さん、そして私とともに診療・教育・研究に携わってくれた仲間、改めて感謝申し上げます。

本学に着任いたしましたのは平成21年(2009年)2月1日になります。令和6年(2024年)1月は、15年目の任期更新時期に当たりましたが、翌年度末に定年を控えておりましたので、更新せずに任期満了で退職することを選択いたしました。15年間、本当にお世話になりました。

この間、より質の高い医療をより多くの患者さんにお届けすること、質の高い外科医をより多く育成すること、我が国の医療と世界の医学に多少なりとも貢献し足跡を残すこと、を目標として取り組んでまいりました。複雑で重篤な病態の患者さんの治療を多数担当させていただきました。幸い、ここ10年の成績でも、日本全国の成績の集計から予測される死亡率の5分の1、5年間にすると10分の1の死亡率で治療を行うことができ、手術の数も着任当初の2倍に増加させることができました。また外科医志望者が全国的に減少し、心臓外科にいたっては5年以上志望者ゼロという大学も多い中で、心臓血管外科で年平均1名前後、外科学第一講座としても年平均4～5名と、少ないながらも毎年、着実に新しい仲間を迎えることができました。

学外では、我が国の心臓血管外科専門医育成制度の責任者を拝命し、医療の質を確保しながら働き方改革に対応すべく、大きな制度

改革に取り組んでまいりました。また、令和6年(2024年)2月に第54回日本心臓血管外科学会学術総会を、ここ浜松の地で開催させていただき栄誉に浴しました。学術的には、私自身、欧州の大きな学会機関誌の編集委員を拝命し、医局員は同じ学会で大きな賞を獲得することができました。他にも複数名が、国内の学会で栄誉ある賞をいただいております。また、国家機関から大きな研究資金をいただき、医療機器の研究開発に携わる機会をいただくこともできました。この研究開発は、本学退職後も新任地で継続し、責任を果たしてまいります。個人的には、本学でやり残したことはございません。

私の退職後も、心臓血管外科にも、外科学第一講座に属してきた他の診療科にも、ともに働いてきた優秀なスタッフがそのまま残ります。既に実績を上げている呼吸器外科に続き、心臓外科のロボット手術も始まります。これまで以上に、診療・教育・研究面を発展させてくれることを確信しております。皆様の変わらぬご信頼に必ず応えてまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。浜松医科大学第一外科は永遠に不滅です。

(※令和6年1月退官時の職名で掲載させていただいております)



令和4年(2022年)山下診療准教授の退職に際し医局スタッフと

2023
12/22(金)

ジュビロ磐田選手 小児科病棟来訪

子どもたちを取り巻く課題解決を目的に設立された、「Re:Frame」の活動の一環として、ジュビロ磐田の山田大記選手と小川大貴選手が小児病棟へ来訪されました。子どもたちは歓迎ボードや推しうちわを手に、職員はユニフォームを着て選手を歓迎。クリスマス飾りに囲まれた病棟も、この日はジュビロ磐田のチームカラーに染まりました。子どもたちからのリクエストで選手がリフティングを披露すると歓声が沸き、たくさんのキラキラした笑顔があふれました。子どもたちは推しうちわへサインとパワーを、保護者の皆さんや職員たちは温かい気持ちを、選手からいただきました。



2023
12/25(月)

中庭リニューアルイベント

クラウドファンディングにて実施された外来棟中庭の改修工事が完了し、そのリニューアルイベントが行われました。鍵盤ハーモニカ演奏集団「おばけんず」による生演奏とともに、外壁には静岡文化芸術大学の百束朋浩先生と学生の皆さんが制作した冬をイメージした映像が映し出され、光と音楽に彩られた中庭は幻想的な雰囲気に包まれました。また会場では、ケーキや焼き菓子のほかに、次世代創造医工情報教育センターの協力で温かい飲み物が提供され、寒い夜空のなかにも関わらず、患者さんや職員などを合わせて100人以上が参加する賑やかなイベントとなりました。



2024
3/9(土)

市民公開講座開催 ～令和5年度地域貢献事業～

市民公開講座『大地震発生時、医療は人を救えるか?』の3回目が開講されました。今回のメインテーマは“避難所”。第一部では3つの講演で、災害医療の原則、浜松市が考える避難所運営、能登半島地震でのDMAT活動を通じた避難所の課題について、知識を共有しました。第二部では仮定の避難所を設定した机上シミュレーションを行い、災害関連死を防ぐための避難所運営について、受講生と当院DMAT隊員と一緒に考えながらグループワークを行い、活発なディスカッションを行いました。本市民公開講座には41名の参加があり、大変、盛会に終わりました。



クラウドファンディング

ウイルス性肝炎啓発イベントの開催について

肝疾患連携相談室 室長 肝臓内科 准教授 川田 一仁

肝臓がんの50%はC型肝炎ウイルス、15%はB型肝炎ウイルス由来であり、ウイルス性肝炎に対して適切な検査と治療により予防することができます。しかし、肝臓は“沈黙の臓器”といわれるように自覚症状がないことから、肝炎ウイルス検査未受検者や結果を把握されていない方がたくさんいます。

肝疾患診療連携拠点病院として静岡県の肝炎治療の中核を担っている本院の肝臓内科と肝疾患連携相談室は今回、クラウドファンディングを実施し、令和6年(2024年)7月6日(土)に浜松駅前でウイルス性肝炎の啓発イベントを開催したいと考えています。

このイベントでは一般市民の皆さんを対象とした市民公開講座に加えて、無料の肝炎ウイルス検査・腹部超音波検査・肝硬度検査を行うことで、肝炎ウイルスに対する啓発と受検や受療を促進することが目的になります。さらに「世界に先駆けて静岡県から肝炎ウイルスを撲滅する」という私たちの

思いが伝わるきっかけになればと考えています。

このイベントが開催できるように皆さんのご協力、そして、クラウドファンディングを介した本プロジェクトへのご賛同をよろしくお願いいたします。



ご支援お待ちしております
実施期間
2024年3月25日～5月23日



浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内 (医療従事者向け)

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。

開催回	開催日時	講師	申込締切
第37回	5月22日(水) 19時30分～ 20時30分	 呼吸器外科 特任教授 船井 和仁 先生 「呼吸器外科でのロボット支援下手術」	5月21日(火)
第38回	6月26日(水) 19時30分～ 20時30分	 一般外科 講師 佐藤 正範 先生 「急性虫垂炎と鼠径ヘルニア ～保存的治療と外科治療～」	6月25日(火)
第39回	7月24日(水) 19時30分～ 20時30分	 心臓血管外科 助教 津田 和政 先生 「心臓外科領域の低侵襲手術」	7月23日(火)

事前申し込み方法： メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。
詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

お問い合わせ： 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）
電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849（平日8：30～18：00）
E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp



※職名は令和6年3月末時点掲載

外来診療日一覧

2024.4.1現在

受付時間 午前 8 時 30 分～ 11 時 一般外来・専門外来
午後 0 時 30 分～ 2 時 専門外来

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

○：午前
◆：予約のみ

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632 ※神経・難病センター受付電話 435-2484											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ 水曜日：午前のみ
※脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
肝臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
※免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
IBDセンター	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
家族性消化器腫瘍外来				◆					◆		
専門外来 脳神経病態外来	◆					◆					午後のみ
早期認知症外来					◆					◆	午後のみ：第1、2、3、5週
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
禁煙外来	◆					◆					※2021.7～休診
ペースメーカ外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
合併症外来								◆			
精神科神経科 受付電話 435-2635											
初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来 摂食障害専門外来								◆	◆		
小児科 受付電話 435-2638											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆						◆			
内分泌		◆						◆			
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液腫瘍				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓	◆			◆	◆	◆	◆		◆	◆	
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
長期フォローアップ外来									◆		第4週のみ
特殊予防接種										◆	
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
呼吸器外科			◆					◆		◆	
乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
一般外科	○		○		○	○		○		○	
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
血管外科		◆			◆		◆			◆	金曜日：下肢静脈瘤
IBDセンター	◆					◆					
リンパ浮腫センター				◆					◆		
専門外来 肥満減量外来	◆				◆					◆	
緩和ケア外来	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
専門外来 教授外来(脊椎)	◆			◆		◆			◆		
骨粗鬆症				◆					◆		
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍			◆					◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診 療 科 名	診 療 日										備 考
	初					一					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
皮膚科 受付電話 435-2650											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	アトピー外来		◆	◆			◆	◆			
	脱毛症外来	◆		◆			◆	◆			
	乾癬外来		◆				◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆				◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆		
専門外来	腎移植外来				◆				◆		医師交代制
	排尿障害外来		◆	◆			◆	◆			
	不妊症外来		◆		◆		◆		◆	◆	火曜日：第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆		◆	◆	◆		
眼 科 受付電話 435-2656											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆				◆				
	斜視・弱視外来							◆			
	ロービジョン									◆	
	角膜外来								◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659											
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	腫瘍外来	◆			◆	◆					
	耳外来				◆				◆		
	耳鳴外来		◆				◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆				◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来	◆				◆	◆			◆	
	顔面神経外来		◆		◆		◆		◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来	◆			◆		◆			◆	
	めまい外来			◆					◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください											
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	NIPT外来						◆				
	腹腔鏡外来				◆				◆		
	漢方外来				◆				◆		第1、2、4週のみ
	母親学級										予約制
	助産師外来										要問い合わせ
	乳腺予防ケア外来										(午後に産科婦人科へ)
A R T 室 受付電話 435-2664											
	不妊外来						◆	◆		◆	
放射線科 受付電話 435-2665											
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	放射線診断科 IVR外来		◆				◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	いたみセンター	◆				◆					
リハビリテーション科 受付電話 435-2747											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ 午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆				◆			
	嚥下外来	◆		◆			◆	◆			午後のみ
	痙縮外来		◆				◆				
	高次脳外来	◆			◆		◆		◆		
形成外科 受付電話 435-2496											
	初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○	木曜日：リンパ浮腫
歯科口腔外科 受付電話 435-2673											
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	唇顎口蓋裂外来										専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
	顎補綴										
	矯正歯科										

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院